

好きな児童劇

秦 隆 眞

児童教化に童話、童謡、童踊など、並べて児童劇が重要な一役を演ずる事は勿論であるが、他のものと較べて簡単に實演されてゐない、それは劇となるころゝ困難がある。脚本、セリフ、配役、演出舞臺裝置、照明、音樂等々こんな複雑に考へなくても、家庭、學校、教園などで、子供が演じて子供の觀るものとなるなかゝ難しくて簡單にはゆかない。

最近映畫に和洋共子供を中心に撮つたものを見受けるが殆んど大人の觀るもので児童映畫と云へるものがない。勿論營利會社だから、こちらの思ふようなものに力を入れてくれないからでもあらうがやはり劇同様困難な點がある。特にわれゝの畑は教園である、佛教童話と共に佛教的な児童劇を必要とする、たゞ困難だと云つて捨てゝおくわけにはゆかない、われゝの手で耕さなければならない。

さて佛教的な児童劇の脚本がない、はづかしながら佛教童話でさへ今開拓最中である、列祖や妙好人の傳記、遺跡の緣起や傳説、佛典や言行錄の中に求めてゆけば澤山あるに相違ないが、それを現在の子供が理解し得る脚本におろしそれを如何に演出すべきかの研究に努力をつゞけなければならない。

しかし私達は現在の必要に迫られて、成る可く効果的であり各々自分の氣持に合致するものを探し求めたり、改作したりしてお茶を濁してゐる、此の程度のものであるが、私が教園兒に實演さしてみたもの、又觀たものゝ中で良

いと思つたものゝ筋だけを掲げるこゝとする、何かの参考になれば幸である。

一、 水 幕

舞臺、遠山の見える野、左よりに壺が一つある

初夏の午下り、續く日照りの熱い太陽が何もかも焼き盡そうとしてゐる、二匹の蝶がヒョロ／＼になつて蔭を求めて舞つてゆく、そこへ一匹の烏が咽喉をかわかして飛んで来て水を求める、小川は渴れてしまつてゐる、畑の隅に捨てられた壺がある、烏がのぞいて見るに僅かの水が残つてゐる、嬉しそうに飲まふとしたがごくかない、いくらあせつて見ても方法がない、遂に烏はたはれてしまつたその後へ雀が數匹さんできた、やはり皆が水を求めて居る、壺の底の水を見つけた一匹が叫ぶ、皆集つてさうしてのもふかミ頭をひねつてゐる、賢い雀がさうだ、皆で小石を拾つて此の壺の中へ投り込めば、水が上へ上つて来る、さうで、疲れてはゐるが一生懸命であつた、水面は段々近づいた、口がさぐいた、皆は狂喜して水を飲んだ、蘇生した思ひでお互は喜びあつた、そばには烏がたはれてゐる、一匹の雀があゝ烏の奴くだばつてゐるな、死んぢやゐないぞ、きつミ咽喉がかわいてゐるのだ、水を飲ましてやらう否こんな奴捨てゝおけ、しかし可哀さうだ、さうして飲ませてやる、漸く氣のついた烏は雀に助けられたこゝを知つて、平素の行ひを慚愧して此の恩を謝した、日は西に傾く、此の時村からきこえてくる雨乞ひの太鼓の音、雀も烏も空を仰いであゝ雨が降つて欲しいな、おや風が出たぞ、あすこに雲が日の暮れかゝる時、ボツリミ一滴、雨だ、雨だ嬉しい、見で何もかも活きかへるのだ。

二、 或る 日

舞臺、道端の一本の大本の下にお地藏さまが立つておいでになる秋の野の景色、左右に藁がつんでゐる。

日曜の午後遠くから唱歌が段々近よつてくる、村の子供達が各々手に馬や、ピンを持つて魚ごりの歸り、お地藏さ

— 幕 —

まの前でおい遊んでゆこうとかくれんぼを始める、ジャケンボンで鬼が決まつて皆が隠れてしまふ、鬼が探しにゆく舞臺は空、その時下手から赤ん坊を背負ふた、少年が手に花を提げて登場花をお地藏さまにさへけて靜かに合掌、そこへしのび足で鬼を氣にしながら一人二人が歸つて来る、少年を見つけて皆が集る、學校を休んでゐる理由をたづねるお母さんが病氣で妹のお守せなければこしはれる、背の子供が泣き出す、さよなら、お大事にご別れる、後で相談の結果今夜お見舞ひするこゝを約して家路へつく（そのまゝ暗點）美しい月が出靜かに上る梟、子供達の歌の聲、話し聲で皆手にくお見舞の印や果物の籠をさけて登場、あゝ重い一休みしよう、否早くゆこうと立ぎまる、中の一人がそれにしても誰が一番に入るか誰が挨拶をするか、君だゝと決まらないのをジャンケンで決めて、さあ出かけよう唱歌を唄ひながら退場。

三、小さくとも 一幕

――靜かに幕――

舞臺、時は秋、所は森の朝

森の曉のレコードで開幕、ラヂオがひびく、三々五々鳩が集つてきて體操をする、終るご合掌、禮拜をして、さあ皆で餌を拾ひにゆこうと去る、その後へ鳥が一匹、あゝ良い天氣だな、何か今日は面白いこゝがないか知らん、あッ誰か来たぞと隠れる、獵師が網をかついで出て来る、こゝらがよからうと網を張る豆をまいて、ポツ／＼鳩の鳴まねで體をかくす、そこへ先の鳩が歸つて来る、オヤお豆が澤山あると飛び込んで喰べる、羽ばたきで、網が落ちる、あッ大變だ、しまつた、さうしようも皆が騒ぐ、中の一匹がシツ／＼騒いぢやいけない、靜かにおし、獵師が来るよ私の言ふこゝをきけば助かる、いゝか、私が一ご號令かけたら羽をひろげる、二でおろす、さあ續ける、皆が力を協せてつゞけるこゝ體が軽くうく、遂に網をかついだまゝこんでゆく、獵師が氣がついてしまつたご後を追ひかける、鳥が出て来て、感心する、でもあの鳩達はさうなるだらうご後を追ふ。

――幕――